



児童館情報戦略のススム。 次世代法がやって来る!

あなたの児童館の「アピール度」をチェック!

児童館、放課後児童クラブで働く全国七万人のみなさん。みなさんは普段、児童館の「外部」をどれだけ意識していらっしゃいますか？ まずは、次のチェックリストに答えてみてください。

毎月のお便りに、保護者向けの「遊びの意味」についての「アピール」を掲載している。
行政担当者に積極的に働きかけ、現場の状況や、子育ての核として地域で果たしている役割について理解してもらっている。
国や県、市町村長の施政方針を意識したプログラムを実行している。
地域住民に理解してもらい、ボランティアや運営委員として関わってもらっている。
今国会で審議されている「次世代育成支援対策推進法案」で、地方自治体に次世代育成支援（少子化対策や子育て支援）についての行動計画の策定が義務づけられていることを知っている。

いかがでしょうか。五問とも「はい」と回答できた方は、これから先は読む必要はありません。その調子で頑張ってください(笑)。しかし、一問でも「いいえ」と答え

ざるを得なかった、あなた！ 今しばらく、お付き合い下さいませ。

「遊びのプロ」だけでは自慢にならない

児童館は遊びを通じて子どもたちの健やかな発達を促す場所。「プロ」のみなさんは、遊びを通じて子ども心に忍び込み、より健全な方向へグイと引っ張りあげるべく心を砕いていらっしゃいます。しかしここで一つ、忘れて欲しくないことがあります。



必ずしも世間の大多数の方が「児童館が単なる遊び場じゃない」ということを理解してくれていく訳ではないというのと。そもそも、「遊びを通じて子どもが育つ」ということだつて、どこまで賛同してくれているのか。学校五日制導入で一番忙しくなったのは、学習塾だという話もありますよネ。

「行動計画」に名を連ねよ!

そもそもなんでこんな話を筆者

がはじめたのか。それは、児童館が今後、外部の目にさらされ評価を受ける機会がますます増える気配があるからです。例えば財団では今、「児童館の第三者評価について」なんていう研究をやっています。高級レストランのように、児童館も、五つ星とか三つ星とか、客観的に評価を受ける時代がもう間もなく来るでしょう。それだけでは

ありません。冒頭のチェックリストの

ように、「次世代育成支援対策推進法」な

るヤヤコシイ名前の

法律では、

市町村等の

の自治体に

「行動計画」

の策定を義務

付けています。

「地域における子育て支援」等のための行動計

画なので、当然児童館が絡んで来るはずなのですが、万が一みなさんの自治体の行動計画に「児童館」の三文字が入っていないなんてことになったら。向こう十年間この計画に沿って動くわけですから、それはそれは大変なことですよ！

「次世代育成」の大合唱のもと、少子化対策や子育て支援の様々な施策が展開されるのを横目に見て、

「行動計画」からはずれた児童館は肩を落として細々と活動していくのでしょうか。

まだ間に合っ!

「行動計画」の実施は平成十七年ですから「ちよつとヤバイ！」と思われた児童館の方、大丈夫、まだ間に合いますよ。冒頭のチェックリストをもう一度ご覧になって下さい。は、お便りが保護者の目にも触れることを意識しましょうという提案です。親にも児童館のことを深く理解してもらおうとチャンスじゃないですか。は、役所に足撃く通うのも仕事のうちってことです。回り回って、子どものためになるのですから。は、児童館の自由さを最大限に生かした戦略です。「国際交流」とか「健康の街づくり」とか、首長の施政方針を意識した活動は、注目されること間違いなしです！ は、児童館は、地域作りにも貢献できるということ。児童館祭りが町内会の祭りになっているなんていうところもありますよ。そして、以上のことを少しずつでも積み重ねていけば、おのずと活動内容も今の時代に即応したものにならざるを得ず、「行動計画」でも重要な役割を果たすこととなると思うのですが、いかがでしょうか。